

2015 年度 白梅家族・地域支援セミナー
(白梅学園大学・カフェスロー共催イベント)

「弱さの情報公開…当事者研究のすすめ」

2015 年 5 月 23 日 (土) 19:00 ~ 21:30
国分寺市「カフェスロー」

第一部 基調講演 べてるの家ソーシャルワーカー
向谷地生良「弱さの情報公開…当事者研究
実践」

これまでのシンポジウムとは違った市民、当事
者も積極的に議論に加わる参加型のシンポジウム
となりました。

第二部 べてるの家・ソーシャルワーカー
向谷地生良氏と白梅学園大学学長汐見稔幸
との対談「いま、なぜ当事者研究なのか」

(文責 山路 憲夫)

障害を抱える人たちが地域で普通に安心して暮
らせる社会にするためには、どうすればいいのか。
1984 年設立、精神障害等を抱える当事者が仕事も
しながら普通に暮らせる地域を作り上げてきた
北海道浦河町の「べてるの家」のソーシャルワー
カー、向谷地さんを招き、汐見学長を聞き手とし
て、その取り組みについて聞くシンポジウムを開
催しました。

襟裳岬にほど近い人口 1 万 3 千人の町にある
「べてるの家」は、有限会社福祉ショップべてる、
社会福祉法人浦河べてるの家、NPO 法人セルフ
サポートセンター浦河などがあり、「べてる」と
呼ばれています。当事者にとって「べてるの家」は、
生活共同体、働く場としての共同体、ケアの共同
体であり、100 人以上の当事者がここで暮らして
います。向谷地さんはそこでさまざまなケースに
関わりながら「当事者研究」という視点で個別の
研究も進めています。今回は会場を国分寺市で、
さまざまなイベント会場にも利用されている
コミュニティ・カフェで初めて開催、障害者の
当事者、家族、支援者、市民約 100 人近くが
参加質問や意見も相次ぎました。